

七【自分の考えをまとめよう】

☆ 学習のめあて

詩の世界を味わい、考えをまとめるために

習
筆者の行動から、心情を読み取る。

ことばの力

- 人物や場面のえがかれ方を読み味わう力
- 文章を読んで考えたことを発表する力

みすゞさがしの旅

—みんなちがって、みんないい

五年下 p 112

一 p 129 「ここが大事」を読んで、次の（ ）に書きましよう。

・「ノンフィクション」は、筆者の個人的経験やある人物の生涯、社会的な事件などを、

(**事実**)

(や (**できごと**))

(をもとにして、具体的にえがいた作品です。

・『みすゞさがしの旅』は (**ノンフィクション**)

(です。前に学習した『雪わたり』は

(**フィクション**)

(です。

二 「いつ」「どのようなことがあったか」に気をつけて、段落ごとに表にまとめましよう。また、その時の「筆者の心情」を考えて書きましよう。

第一段落 p112

いつ	どのようなことがあったか	筆者の心情
昭和四十一年 (一九六六年) 大学一年	『 日本童謡集 』という本に、金子みすゞの『 大漁 』という作品がのっていた。 「 みすゞさがし 」が始まった。 本をさがしたが、一度も出会うことはなかった。	・強く心を動かされた。 ・深いやさしさを感じた。 ・いたいどんな人なのだろう。 ・みすゞの作品をもっと読みたいと思った。

第二段落 p115

二年後 昭和四十三年 (一九六八年) 大学三年	詩人の佐藤義美さんの原稿の中に『 つゆー金子みすゞ 』と書いてあった。 ・(山口県下関市) に住んでいた。	・みすゞの三冊の手帳がどうなったか知りたくなった。
----------------------------------	--	---------------------------

第三段落

P116

『**童話**』に投稿していた。
 ・当時の**(わかい詩人)**のあこがれだった。
 ・**(二十六)**歳でなくなった。
 ・三冊の**(手帳)**が西條八十の手もとに預けられている。
 手帳がどうなっているのか知りたくて、西條八十のおすめさんに**(手紙)**を書いた。

童謡集『繭と墓』を手にした。

・二年後
 昭和四十五年
 (一九七〇年)
 ・^{しものせき}下関の**(本屋)**で働いていた。
 ・西條八十がみすゞの作品を**(絶賛)**していた。
 その後しばらく、進展なし。

この本は**(宝箱)**のよう。
 ・もう見つかからないかもしれ
 ない。見つからなくてもいい
 ただずっとみすゞを思い
 続けたい。

第四段落

P118

およそ十年後
昭和五十七年

(下関)に出かけるたびに何人もの人にみすゞのことをたずねてみた。
(下関)の友人に、
(古くからある本屋)をさがして、みすゞのことを知っているかきいてほしいとたのんだ。

みすゞが住んでいた**下関**なら、みすゞのことを知っている人に出会えるかもしれない。

六月四日

友人が、みすゞのいとこの**(花井正)**さんを見つけてくれた。
 花井さんに**(電話)**をかけた。
 ・明日一番の新幹線で**(下関)**の自宅にうかがいたい。
 ・みすゞの弟の**(上山雅輔)**さんが、**(東京)**にいる。

もっとくわしくみすゞについて知りたい。

次の日
六月五日

劇団の電話番号を調べ、**(上山)**さんに電話をかけた。

すぐにでも金子みすゞのことを知りたい。

六月八日

(上山)さんに電話をかけた。

金子みすゞの作品が好きで、みすゞのことならどんなことでも知りたい。

六月二十日
午後二時

(三冊の手帳) を見せてもらった。
弟さんの話

明治(三十六) 年に山口県やまぐちの長
門市仙崎という小さいけれど美しい

(漁師町) で生まれる。

(六) (大家族)

本名 (金子テイル)

(だれにでも好かれる)

人のいやがることは決して言わない

(やさしい) (少女)

一つのものを見て、

(たぐさんの言葉) を考える。

そのとき、そのときで、

(自分にぴったり) (の)

言葉を使うのが好きな人。

一人で店番をしながら、ひまを見つ

けては (本) を読み、

(童謡) を書いた。

あ、これはあの西候さんが持て
いたという、あの三冊の手帳で
すか。

よく残っていましたね。

すばらしいですね

三 第六段落を読んで、筆者の「みすゞさがしの旅」はどうなったのか、まとめましょう。

(『大漁』)に出会ってから(十六)年、みすゞの全作品と生涯がわかった。

二年後の(昭和五十九年二月)、『金子みすゞ全集』(全三巻)を世に出す。

四 筆者は、みすゞの作品の、どのようなところに心を引かれたのでしょうか。それぞれの作品をもとに考えましょう。
※ P129を参考にしてみましょう。

大漁

大漁を喜ぶ人々のうらにかかれています。海の魚たちの悲しきを見つめています。
一人のやさしい詩人の目を感じました。

露

小さなもの、カッ弱いもの、この地球にある全てのものに、深いやさしい
まなごしを かけかけている。

わたしと小鳥とすずと

この世の全てのものが、それぞれちがうからすばらしく、一人一人がちがう
から大切で、すてきなもりだと書いている。

五 みずみずをさがし求める筆者について、あなたはどう思いますか。書くポイントを次の三つから選ぶか、自分で考えて書きましょう。

- () 筆者の情熱
- () 筆者のものの見方
- () 筆者の行動力
- () 自分で考えたポイント…筆者の

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

友達と読み合いましょう。

結論を先に書いたり、読み手を引きつけるくふうを考えたりして書いてみよう。



六 次の〓線の言い方を使って、短い文を作りましょう。

(1) この詩人はうたっているのです。(教科書 p114)

あなたが手に持っているものはなんですか。

(2) 手もとに預けてあることなどでした。(教科書 p116)

昨日の忘れ物が、まだそのまま置いてある。

(3) 時間だけが、どんどん過ぎていきました。(教科書 p118)

私は黒板の字を急いで写していききました。

(4) わたしにわたししてくれたのです。(教科書 p122)

彼に電話してくれたり、あなただですか。

【学習のふり返し】

筆者の行動や心情を読み取り、自分の考えを書いたり発表したりすることができましたか。
よくできた ・できた ・あまりできなかった ・できなかった